



テストを考える

昨日から算数と国語の鳥取県診断テストが始まり、来週は学年によって実施する教科が多少異なりますが算数・国語・社会・理科のNRT（全国標準診断的学力検査）のテストが行われます。1年間の学習を振り返ってしっかり取り組んでほしいと思います。

さて、これらのテストはいったい何のために行われているのでしょうか。ひとつには、それぞれの子どもたちの学習のつまづきや定着の度合いを確認し、長所を伸ばし弱点を克服するために行っています。指導する教職員にとっても、より効果的な指導方法はないか、個別にどのような支援ができるかを分析し検討する大切な資料にもなります。テストは子どもたちが自分の力を伸ばしていく一里塚なのです。

また、勉強というものはやればできるし、やらなければできませんから、**テストは勉強に取り組んだかどうか、努力したかどうかを計るものさし**ということもできます。

テストが終わる度に、何ができて、何ができていないかを確認し、できた得意な分野では、より難しい問題にチャレンジしたり、できなかった弱い分野では、例題にもどってや

り方を確認したり、ドリル問題をたくさん解いたりするなど、**テストがゴールになるのではなくスタートになるようにしてほしい**ものです。

その他にも、思い違いや簡単なミスが多い傾向があるとか、時間の配分が十分でなく全体を解くことができていないとか、子どもたちの行動傾向を見ることもできます。

テストは高学年であれば自分で振り返ることも勉強ですし、保護者の皆さんには懇談などで担任に尋ねていただいて、子どもたちが伸びていくヒントを共有できたらと思います。

このように、テストは人と点数を競い合うものではなく、**自分が伸びていくために行うもの**なのですが、中学生になると受験があり、点数を競うようになっていきます。なかなか点数が伸びなくて悩む子どもたちも多いのです。入試は点数で決まるものです。テストの点数で人を評価するのはいかながなものかという意見もあります。でも、テストはその人の人間性を評価するものではありません。だから点数ぐらいのことで合否を決めた方が良いでしょう。

テストは自分の力を伸ばすスタート地点です。今回のような1年を振り返るテストだけでなく、日々のテストも大切にしたいものです。

【おめでとうございます】

第12回鳥取県ジュニア美術展覧会	絵画・デザインの部	奨励賞	1の2	増井	一徹
第50回「わかば」作文・図画コンクール	作文の部	優秀賞	2の2	福庭	美月

優秀な成績を収めました。おめでとうございます。今日の全校朝会で表彰しました。

羽合小学校 寺谷英則